



ふくしまオーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～

No. 25 - 5

平成26年 3月24日

農業総合センター有機農業推進室
<http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/>
 TEL (024) 958-1711

6次産業化に向けた勉強会が開催！

～『福島県産オーガニック・コンソーシアム』設立を目指して～

農業総合センター有機農業推進室

1月29日(水)に、農業総合センターにおいて『福島県産オーガニックの6次産業化に向けた勉強会』が開催されました。

この勉強会は、福島県産有機農産物のブランド確立と6次産業化の促進を図るため、その中心となる有機農業者・オーガニック関連業者・食品関連事業者・流通業者等に共通認識を持っていただくために実施されました。そしてその先に、情報交換や課題検討の場としての「ふくしまオーガニック・コンソーシアム」設立を目指しています。

この勉強会では、すでに6次産業化を実施している農業者3名と事業者2名の方(表)に事例発表をしていただきました。その後、それぞれが自分の商品を展示している場所で、質問に回答していただきました。また、昨年度「オーガニック・コーディネーター」として福島県産有機農産物の販路開拓等に御活躍していただいたNPO法人オーガニック事業協会の南埜理事長に『福島から持続可能な社会の提案を世界へ～それを具体化していくためのオーガニック・コンソーシアム～』という演題で講演していただきました。



No	氏名	住所	所属	主な製品
1	関 元弘	二本松市北戸沢	ななくさ農園、ナノブルフリー	発泡酒、シールド 等
2	小川 未明	喜多方市山都	チャルジョウ農場	雑穀餅、乾燥野菜 等
3	須藤 久孝	会津若松市荒館	すとう農産 代表取締役	米めん、味噌 等
4	廣田 裕介	二本松市安達大平	株式会社 GNS 専務取締役	有機食用油脂 等
5	渡邊真紀湖	福島市鎌田	わ田や合同会社	有機綿使用の手拭い 等



関 氏と発泡酒・シードル



廣田 氏と食用油



小川 氏と雑穀もち



渡邊 氏(左)と有機綿の手拭い



須藤 氏(右)と味噌



その他、環境保全農業課から「福島県有機農業の現状について」と「有機JAS認証制度について」、農産物流通課から「地域産業6次化戦略」の関連事業等の説明、県産品加工支援センターから業務等の紹介がありました。

会津地方と安達地方の有機農業者交流会が開かれました!

農業総合センター有機農業推進室・会津農林事務所有機農業担当

2月16日(日)に、会津自然塾を中心とした会津地方の有機農業者の皆さんと安達地方有機農業者組織「オーガニックふくしま安達」(以下、オーガニックふくしま安達)の皆さんの交流会が、会津美里町の会津高田公民館にて開催されました。

当日は、前々日からの大雪にも関わらず多数の農業者の皆さんが参加されました。

地元会津美里町町長・県農業総合センター有機農業推進室の手代木室長の来賓挨拶の後、有機農業推進室の担当より福島県のこれまでの有機農業推進の取組みの経過や有機JAS制度についての説明を行い、その後質疑応答を含めて互いに各々の組織の取組や今後の活動等について報告や意見交換がなされました。会津自然塾の鹿野義治代表より会津自然塾の設立以降のこれまでの活動や昨年NPO法人として新たなスタートを切ったことなどが説明されました。

オーガニックふくしま安達の関元弘代表幹事からは、震災直後の設立から始まったこれまでの活動経過、特にオーガニック・コットンの取組みでの農作業体験や発砲酒・シードル等の加工品開発についての活動が紹介されました。

このほか、出席した各参加者の皆さんから有機農業者の皆さんへの激励等も行われ、盛況のうちに交流会は終了し、外の雪も溶かすような熱い意見交換が遅くまで行われました。



交流会全体風景



鹿野義治氏より会津自然塾の活動経過の紹介



関元弘氏よりオーガニックふくしま安達の活動紹介



各参加者からの意見交換

(写真は会津丸果の鈴木専務)

頑張ってます！オーガニックふくしま安達！

農業総合センター有機農業推進室

<会津若松市有機JAS認定加工業者訪問>

会津地方での交流会の翌日、2月17日（月）に会津若松市内の有機JAS認定加工食品業者である（株）大印を訪問、代表取締役の佐藤仁氏から会社のこれまでの取り組みの説明をいただいた後、加工工場内を視察させていただきました。（株）大印では業務用総菜や給食事業、宅配お弁当事業等を展開していますが、食品事業者としての徹底した厳しい管理体制を執っています。特に記録の整備については農業者の皆さんにとっても共通した注意点であり活発な意見交換がなされました。また佐藤氏から様々な情報提供をいただき、農業者にとっても次年度以降の有機農業の取り組みにさらなる弾みが生まれるものと期待されます。



佐藤氏から説明を受けるオーガニックふくしま安達の会員



加工工場内の視察風景

<総会>

さる2月28日（金）、二本松市内において平成25年度定期総会が行われました。

事務局から平成25年度の活動実績や会計報告のほか、次年度の活動計画等が議論されました。関代表幹事の提案により新年度の有機農産物出荷体制については、新たな内部組織を設立し、新たな販路確保と農産物の出荷をより強力に展開することが決定しました。総会後にはNPO法人オーガニック事業協会の南桝理事長を講師に、「ふくしまオーガニック・コンソーシアムの提案」と題して研修会が行われました。これまでの活動をより強化するとともに、新たな活動の展開も目指していきます。



総会で次年度の活動を議論中



南桝理事長の講演

有機農業フォーラムを開催！

農業総合センター有機農業推進室

3月7日（金）に、農業総合センター多目的ホールにおいて『有機農業フォーラム』を開催いたしました。

参加者した有機農業者は、県内全域から合計36名（県北3名、県中6名、会津25名、いわき2名）でした。

セミナーは二つの講演が行われ、最初に東北大学大学院准教授の石井圭一氏から「ヨーロッパの有機農業振興と地域への広がり」という題で、EU諸国（主にフランス）における有機農業の広がりについて事例を交えて話していただきました。有機食材の給食導入や若者の有機農業への就農、農業によって引き起こされる環境汚染（農薬、硝酸態窒素）を防ぐ役割などが、参考になると感じました。

次に農事組合法人山形おきたま産直センターの目黒祥一氏から「山形おきたま産直センターの有機栽培米の取り組み」という題で、有機米部会の活動や新技術導入の試みなどのお話しをしていただきました。除草方法として、竹箒・チェーンからホバークラフトまで色々実施していることに驚きました。

その後、「販路拡大の取り組みについて」というテーマで、主に『米の販売』について、出席した有機農業者を中心に、アドバイザーとして講師の両先生や関係機関の担当者が加わって、活発な意見交換が行われました。

また、水田畑作課の佐藤和也主任主査から、「ふくしま米産地戦略推進事業」について、説明をしていただき、質疑応答が行われました。



目黒先生の講演



左：目黒先生、右：石井先生



佐藤主任主査の説明



意見交換

会津方部で有機農業研修会を開催！

会津農林事務所農業振興普及部

3月3日（月）に、湯川村の会津農業共済組合大会議室において有機農業研修会を開催しました。当日は、有機農業に関わる農業者や関係者143名の出席となりました。

研修内容は、弘前大学農学生命科学部杉山修一（すぎやましゅういち）教授による講演と、あいづ有機農法生産組合の玉樹奨平（たまきしょうへい）氏の研修報告のほか、有機関係資材の展示などを行いました。

杉山氏の講演は、「自然栽培のすすめ」を演題に行われ、自然栽培とは「生物の力を利用する農業」であり、決して何もしない栽培方法ではなく、「人間の働きかけが必要」なことや、自然栽培へ取り組むことは、生産者が「栽培管理というフィールドプレーヤから作物の生育を手助けする監督（ステージ・マネジャー）へ役割が変化する事だ」と述べられました。また自然栽培のメカニズムについて、土壌や植物に寄生する菌類や天敵昆虫による共生関係などの最近の研究成果や現地栽培事例等が紹介されました。

玉樹氏からは、本年1月19日から11日間の日程で視察したアメリカ合衆国（西海岸）の農業関連施設や有機農場の経営や栽培状況等が報告されました。

参加者からは、多くの質問や現状に対する意見が出され、盛況な研修会になりました。



講演する弘前大 杉山教授



自然栽培について質問する参加者



有機関係資材展の様子

平成25年度有機農業実証ほ成績検討会を開催！

農業総合センター有機農業推進室

3月4日（火）に、農業総合センターにおいて「平成25年度実証ほ成績検討会」を開催いたしました。

本年度は、「農業新技術・新品種普及定着事業（有機農業ステップアップ普及定着事業）」で、県内10か所に実証ほ場を設置し、有機農業技術の向上及び導入促進を図るために、

農業者自らが技術や成果を確認するための拠点としてきました。

検討会では、農業総合センター有機農業推進室、会津農林事務所、双葉農業普及所の有機農業担当が各実証ほの本年度の成績概況について報告した後、実証ほ担当農家から忌憚のない感想、意見が述べられました。

それぞれの成績に対して、色々な質疑があり、それに対して応答がありました。

さらには、収穫した有機農産物の販売にまで議論が発展し、風評被害による販売不振の現状や今後に対する考えまで語っていただけの場面もあり、実証ほ担当農家相互の情報交換の場ともなりました。



検討会の様子



意見を述べる梅谷勝義氏



意見を述べる菅野瑞穂さん

有機農業公開セミナーが開催される！

農業総合センター有機農業推進室

3月17日（月）に、福島県文化センター小ホールにおいて、有機農業参入促進協議会主催の第14回有機農業公開セミナーが「有機農業が地域に広がることのメリットを考える」をテーマに開催されました。

今回は、コモンズの大江正章代表の基調講演と3名の事例発表（①福島県有機農業ネットワークの菅野正寿氏、②埼玉県・風の丘ファームの田下三枝子氏、③三重県・伊賀有機農業推進協議会の村山邦彦氏）が行われ、最後に三重大学大学院の波野野豪教授をコーディネーターに置き、パネラーとして講演者と事例発表者に有機農業参入促進協議会の山下一穂会長を加えたパネルディスカッションが行われました。参加者が約50名と少なかったのですが、とても参考になる発表や熱心な意見交換など、大変有意義な集まりでした。



村上氏の事例発表

2日目の3月18日（火）には現地見学会が行われ、約30名が参加し、マイクロバスで二本松市東和地区を廻りました。

①ゆうきの里東和地域資源循環センター（堆肥センター）では、籾殻、牛糞・おが屑に食物工場の野菜屑や出汁殻、飴玉などの地域資源を加え、1年間掛けてより良い堆肥を作っている様子や、販売価格を抑えるために食物工場から産廃処分費を得ていること、堆肥生産施設の建設は肥育牛牧場が行い、生産・販売の運営を分離していることなどの話を伺いました。

②ふくしま農家の夢ワイン（株）では、桑園跡にブドウを植えて、稚蚕共同飼育所跡を工場にして、農家8名が出資して始めたことや、工場の内装工事も自分たちの手で行ったこと、大規模な均一のワインではなく、小規模に各自が個性的なワインを作り持ち寄るようにしたいという話を伺いました。



パネルディスカッションの様子



堆肥センター



ふくしま農家の夢ワイン

③道の駅ふくしま東和では、ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の今まで行ってきた活動の紹介をしていただきました。特に原発事故後の災害復興プロジェクトについて、熱く語って下さいました。

④「季の子工房」の武藤一夫さんは、本業のキノコ栽培に加えて、民宿や農家レストラン、パン作りなどを行っています。

全国各地（北海道～九州）から参加された方々は、説明者との充実した質疑応答に満足していました。



ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会



季の子工房（中央：武藤一夫氏）